

【参 考】

○特定国内希少野生動植物種

国内希少野生動植物種のうち、繁殖技術が確立されており、その流通を認めたとしても種の保存に影響を及ぼさないと認められるものについては、特定国内希少野生動植物種として、事前に届出を行った事業者による商業的取引を認めている。今回指定されるオキナワセッコクの他、現在、アマミデンド、ホテイアツモリ、レブンアツモリソウ、アツモリソウ、ハナシノブ、キタダケソウの6種が指定されている。

○ヒメタニワタリ (*Hymenasplenium cardiophyllum*)

チャセンシダ科の植物。森林中のやや湿った石灰岩上にまれに生じる常緑性のシダ。根茎は横走し、葉柄は基部に毛がある。長さ 5-8 cm。葉身は単葉、全縁、広い卵形で長さ 5-12 cm、幅 5-8 cm。孢子嚢群は前側の側脈に沿って長く伸び、中肋近くから、葉縁に 2/3 くらい寄ったところまで達する。小笠原諸島母島及び北大東島に分布し、それぞれ数十株程度生育するとされる。減少要因として、アフリカマイマイによる食害や台風等による生育地の崩壊も影響を与えている。

○ルリカケス (*Garrulus lidthi*)

スズメ目カラス科の鳥類。奄美諸島の奄美大島とそれに近接した島のみに生息する日本固有種。照葉樹天然林が主な生息環境で、林縁部でも活動する。地上及び樹上で採餌し、脊椎動物とそれらの卵、節足動物、シイ・カシの実など、雑食。繁殖個体数は少なくとも 1000 羽と推定される。

本種は平成 5 年に国内希少野生動植物種に指定されたが、生息地である奄美大島において捕食者となる外来種のジャワマングースの防除事業の進展や森林の回復等により生息状況の改善が見られ、平成 18 年 12 月に公表した環境省の鳥類レッドリストにおいて、本種は絶滅のおそれのある種にリストアップされなかった。これを受け環境省では、平成 19 年度に再度ルリカケスの生息状況等の調査を行い、レッドリスト作成時と同様の状況が継続されていることを確認している。

このようなことから、ルリカケスは希少野生動植物種保存基本方針に定める国内希少野生動植物種の選定要件に合致しなくなったと認められたため、今回、国内希少野生動植物種の指定を解除したもの。環境省では、今後ともレッドリスト見直し等の際には、ルリカケスの生息状況を評価することとしており、その結果によっては再度国内希少野生動植物種に指定することも検討していく。

○オキナワセッコク (*Dendrobium okinawense*)

ラン科の植物。暖地の山地の自然林内に生える常緑の着生ランで、日本固有種。茎は束生し、細長く垂れ下がり、長さ 70cm。葉は互生し、長さ 10-12cm。総状花序は各節から出て、通常 2 花をつける。花は白色または淡紅色。沖縄県国頭村、東村、大宜味村の山地に分布するが、稜線部など登山道や林道が入っているあたりでは、指定前の園芸目的の採取によってほぼ消滅した。本種は平成 14 年に国内希少野生動植物種に指定されたが、研究の進展等により、商業的に個体の繁殖をさせることが可能となり、特定希少野生動植物種の指定要件を満たすため、今般、特定希少野生動植物種に指定したもの。